シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介6

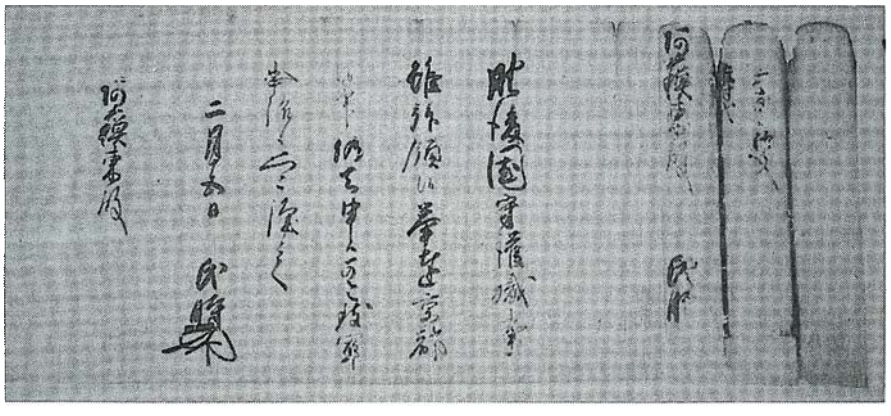
重要文化財　阿蘇家文書（34巻36冊）

工　藤　敬　一

延文４＝正平14年(1359) 8月16日の大保原（筑後川）合戦における宮方（南朝方）の勝利によって、九州の情勢は大きく宮方優勢に傾く。前年末将軍に就任した足利義詮は、直ちに大友氏時を肥後の守護に補任、翌春には斯波氏経を九州探題に補し下向を命じた。しかしこの年は武家方・宮方とも前年の大会戦の痛手が大きく、双方とも指したる動きはなかった。翌延文6 ＝正平16年になると、にわかに情況はあわたゞしくなり、阿蘇氏に対する双方の働きかけが活発化する。２月３日征西将軍宮懐良親王は、阿蘇惟澄に阿蘇社社務職と社領を安堵する。事実上の大宮司職の承認である。一方、同月22日将軍義詮は、大友氏時の注進によって、阿蘇惟村（惟澄嫡子・前大宮司惟時養子）の戦功を賞し所領を安堵するとともに、宮方によって報いられることなく不満をかこっている惟澄を肥後国守護職補任をもって誘引する。これに対し宮方の菊池武光は、惟澄の二男八郎二郎に「武」の一字を与え惟武を名乗らせる。惟澄は武家方の誘引には乗らなかったが、もはや積極的に動こうとはしなかった。惟村（系）と惟武（系）という武家方と宮方の対立は、以来それぞれ矢部と阿蘇南郷を根拠として、宝徳3 年(1451)惟村系の惟忠が、惟武系の惟歳を養子に迎えるまで続くことになる。

10月 3日、前年から下向を命ぜられていた斯波氏経はようやく豊後府内に着くが、肥後経略の中心は依然氏時であった。氏時の戦略は阿蘇惟村を積極的に支え、彼を中心に肥後経営に当ることであった。今回紹介する文書は、その翌年（康安2 年）2 月15日の惟村宛の大友氏時自筆書状…［一］と、同日付の氏時の 3通の書状…［二］・［三］・［四］である。［一］は氏時が筑後・肥後の凶徒（宮方のこと）退治のため発向するので急ぎ来陣されたい、別紙に書きあげた所領について安堵の下文を給わるよう、京都（室町幕府）に必ずとりつぐことを神仏にかけて約束する、といっている。［二］・［三］・［四］はその別紙に当る。このうち［二］は、自分のもつ肥後国守護職を惟村に去り渡すよう京都に挙達したこと、［三］・［四］はそれぞれ菊池武光と同庶子跡並びに守富荘（現熊本県下益城郡富合町）、および今度宮方に降参した豊後国日田郡の日田出羽次郎同庶子跡と同国井田（現大分県大野郡千歳村）・大佐井（現大分市）両郷を、惟村に去り与えるよう京都に注進する、というものである。そして同年10月7日に惟村を肥後の守護とする義詮の御判御教書が出された。もちろんこのあと10年間は懐良親王を中心とする征西府の全盛時代を迎えるので、惟村の肥後守護職がどの程度の実質を持ち得たかは問題である。

それはともかく、［一］は明らかに氏時の自筆書状であり、肥後経営に腐心する氏時のつよい惟村への働きかけを示すものである。上部が一部焼失しているのは残念だが、闊達な筆運びで仲々魅力ある書状である。［二］以下はもちろん右筆書で花押だけが氏時の自筆である。



〔二〕大友氏時書状

（折封ウハ書）
「阿蘇東殿　　氏時」

肥後国守護職事、雖拝領候、
擧達京都候畢、仍去申候、
可令致軍忠給候、恐々謹言、
二月十五日　氏時（花押）
阿蘇東殿

〔四〕大友氏時書狀

豊後国日田郡日田出羽次郎同庶子等今度筑後宮降參跡同国井田大佐井兩郷事、去申候、御領掌候、可令致軍忠給候、其子細可注進京都候、

恐々謹言、

二月十五日　　氏時（花押）

阿蘓東殿

〔三〕大友氏時書狀

肥後國菊池肥後守武光同庶子等跡并森（守）富庄事、去申候、御領掌候、可令致軍忠給候、其子細可注進京都候、

恐々謹言、

二月十五日　　氏時（花押）

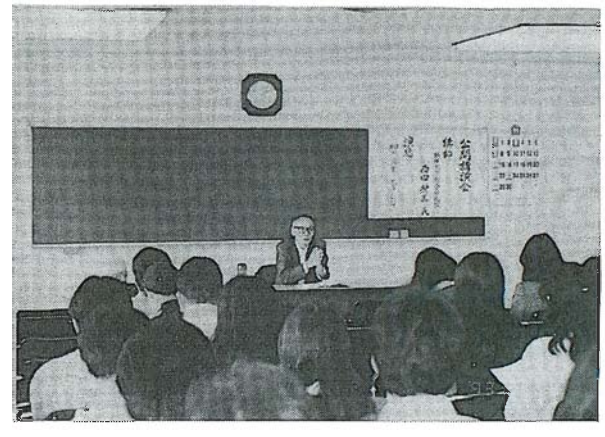
阿蘓東殿

第10回特殊資料展・講演会を開催

中央図書館では平成５年11月15日（月）から17日（水）まで「細川重賢の文事」と題する特殊資料展を自由閲覧室において開催しました。

昭和59年から始まった特殊資料展も今年で第10回を数えますが、今回は、江戸中期の熊本藩主細川重賢の文事をテーマに、重賢が主催した漢詩や俳諧の会の興行記録、重賢自筆の詩稿、茶道や謡の資料、日記、絵図類など重賢の幅広い文事活動を示す貴重な資料37点を展示して、学内外の参観者の興味をひきました。

また、16日（火）には、午後 1時半より 3時まで教養部西田耕三教授の「細川重賢の文事について」と題する公開講演会を行い、多数の聴講者がありました。



ISSN 0917-7604

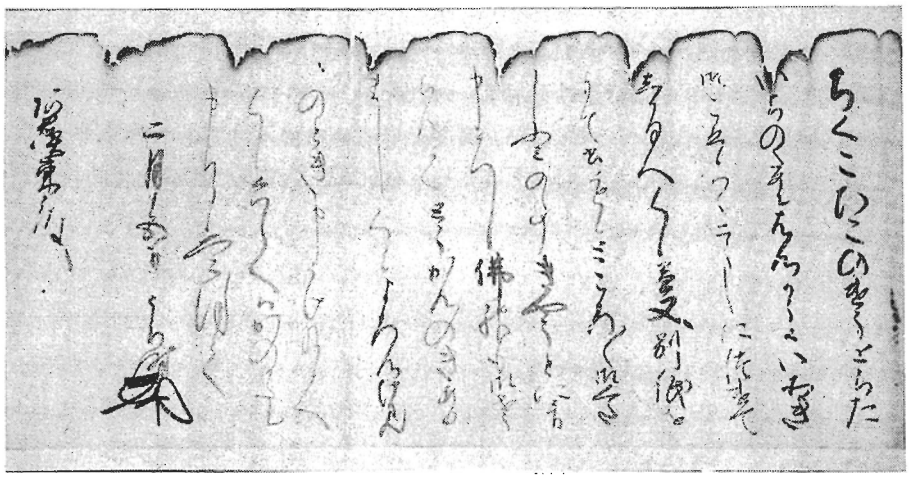
東光原

熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, No.7, Feb. 1994

目　次

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介 6
—重要文化財　阿蘇家文書（34巻36冊）—
「図書館」から思い出すこと



大友氏時書状（阿蘇家文書より）本文に解説

〔一〕大友氏時書状

（筑後肥後）（図徒等　退治）ちくこひこの事、（発　向）ちくこひこの事、いわき御こゑ候へゝ、
（公　私）こう〜にたゝてゝふくるへく候、兼又、別紙をもて書進候ところ〳〵御
（下　文）くだ〜ふみの事、（京　都）きやうごにこり申候へく候、佛神も御（照　覧）をうらん候へ、
（等　閑）ごうかんのきあるまゝく候、よろつ（見　参）けさんのこと申うけ給候へく候、
くれ〜くれかのくだ申て候、恐々謹言、
（北朝康安二年）二月十五日　（氏）うち時（花押）
（惟村）阿蘇東殿